

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条第1項に基づく

栄町教育委員会の点検・評価報告書

(平成23年度対象)



栄町教育委員会

平成24年11月

はじめに

平成１９年６月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、平成２０年４月から全ての各教育委員会は毎年その全ての権限に属する事務の管理、執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することとされました。栄町教育委員会では法の趣旨に則し、課題や方向性を明らかにし、より効果的な教育行政の推進のため実施するものです。また、学識経験者からの意見を受け報告書にまとめ、町議会に報告するとともに町民への説明責任を果たすものです。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第２７条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第１項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第３項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

２ 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

栄町教育委員会委員名簿

職 名	氏 名
委 員 長	鈴 木 初 子
委員長職務代理者	金 子 一 男
委 員	芦 田 坦
委 員	野 寺 郁 子
教 育 長	澤 村 保 夫

目 次

1	点検・評価の対象	P 1
2	点検・評価の方法	P 1
3	点検・評価の結果	P 1
4	まとめ	P 2
5	点検・評価（施策評価シート）	
	基本方針（１）	
	創意と活力のある教育活動の中で、基礎基本の習得及び活用能力の育成と個性を生かすきめ細かな学校教育を推進します。	P 3
	○学識経験者の意見	P 13・P 14
	基本方針（２）	
	生涯学習とスポーツを通して、心身ともに健康で生きがいのある生活と心のかよう地域社会をつくるとともに、地域の教育力を生かした子どもたちの健全育成を推進します。	P 15
	○学識経験者の意見	P 20
	基本方針（３）	
	地域に根ざした芸術・文化の育成と町内にある文化財の保護・伝承・活用を図り、個性豊かで潤いのある地域文化の醸成を図ります。	P 21
	○学識経験者の意見	P 25

1 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、「栄町教育方針」を実現するため、平成23年度の重点的な取組みとして実施した、「特色ある学校づくりの支援」「きめ細かな教育活動の推進」「教育施策の総合的な推進」「情報通信機器の整備」「情報共有の推進」「学習環境の整備・充実」「学校給食の充実」「生涯学習環境の充実」「青少年健全育成事業の充実」「生涯学習資料の充実」「スポーツ振興事業の充実」「文化芸術発信拠点の充実」「町史編纂事務事業の充実」「文化財保護業務の拡充」の14の施策について点検・評価しました。

2 点検・評価の方法

点検・評価にあたっては、教育委員会事務局で作成した「施策評価シート」により自己評価を実施しました。

評価は、主要事業の取り組み状況（達成度）について

- 目標を達成★★★
- 目標をほぼ達成★★
- 目標に達成していない★
- 現時点で判定できない—

の4段階で実績・成果・課題を記述し、評価する方法で行いました。

なお、客観性を一層高めるため、教育に関し学識経験を有する方に取り組み状況を説明し、基本方針ごとの自己評価に対する学識経験者からの意見をいただきました。

ご意見をいただいた方々のお名前は、次のとおりです。

（50音順 敬称略）

氏 名 田邊 みさを（元学校長）

氏 名 中島 宣行（大学教授）

3 点検・評価の結果

施策評価シートにより、点検評価を実施しています。

14施策の結果は次のとおり

《目標に対する達成状況》

目標を達成★★★・・・・・・・・・・9施策

目標をほぼ達成★★・・・・・・・・・・6施策

目標に達成していない★・・・・・・・・0施策

現時点で判定できない—・・・・・・・・0

（※同じ施策名で2つの課が評価しているものが1施策あります。）

4 まとめ

【学識経験者からの意見を受け、本町教育行政が取り組む方向について】

近年、子どもの学力や学ぼうとする意欲の低下、規範意識の低下などが問題になっており、「知」、「徳」、「体」のバランスの取れた「生きる力」を育てることが求められています。

新学習指導要領では「生きる力」を育むという理念のもと、知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力などの育成を重視しています。「生きる力」を育むためには、学校だけでなく、家庭や地域など社会全体で子どもたちの教育に取り組むことが大切です。

教育委員会では、次代を担う子どもたちに対し、基礎・基本の定着を図り確かな学力を習得させるとともに、地域の特性を活かした体験活動を充実し、個に応じたきめ細かな指導を推進しています。自ら学ぶ意欲を身に付けた心豊かでたくましい子どもを育てるためには、きめ細かな教育の展開や、家庭や関係機関との連携による心の教育の充実、教職員の資質向上などが重要となっています。

このため、具体的な取り組みとして、学力向上とあいさつ運動を重点目標に掲げ、基本的な生活習慣を身につけ、自ら学ぶ意欲を持ち、心豊かにたくましく生きる子どもの育成を目指しています。特に、学力向上については、地域の方々や大学生等の協力を得て、基礎・基本の確実な定着とプロジェクト研究を通して課題解決能力の育成を目指す栄町学習道場「わくわくドラム」を開設するとともに、学校教育振興会と連携して、「算数・数学の計算領域」と「国語の漢字」をしっかりと身につけさせるため、昨年度は小学校用「栄町学力スタンダード」を、本年度は中学校用を作成しました。

また、学校、家庭、地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育む体制づくりを目指し、これまで各地域のふれあい推進委員会が進めてきた地域との交流活動や竜角寺台小学校で取り組んできた学校支援地域本部事業を総合的に「栄っ子 夢・元気プロジェクト推進事業」として体系化し推進しています。

さらに、小・中学校の児童生徒数の減少に伴う学校の小規模化が、学校運営や教育指導に大きな影響をもたらしていることを踏まえ、5月の教育委員会議で「栄町立小・中学校の学校規模の適正化基本方針」を策定し、子どもたちにより良い教育環境を提供するという基本的な考えに立ち、保護者・町民の皆様のご理解・ご協力が得られるよう努めているところです。

また、龍角寺古墳群・岩屋古墳の公有化を進めるとともに、今後の史跡整備の資料を得るため、昨年に引き続き学術調査を実施したところ、岩屋古墳の東西北側の三方に二重の周溝が巡らされていることが判明しました。このことにより、周溝を含めると発掘調査が行われている方墳としては日本最大の規模であることがわかってきました。

このような重点的な取り組みとして実施した14の施策について、自己評価を行うことで現状・課題を把握し、何より学識経験者の方からいただいたご意見を真摯に受け止め、多岐にわたる教育行政上の課題解決に向けて、今後の教育施策に反映させていく所存です。

5 点検・評価（施策評価シート）

基本方針（1）

創意と活力のある教育活動の中で、基礎基本の習得及び活用能力の育成と個性を生かすきめ細かな学校教育を推進します。

【施 策 名】

- ・ 特色ある学校づくりの支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 4
- ・ きめ細かな教育活動の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 5
- ・ 教育施策の総合的な推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 6
- ・ 情報通信機器の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 7
- ・ 情報共有の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 8
- ・ 学習環境の整備・充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 9～P 11
- ・ 学校給食の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 12

○学識経験者の意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 13・P 14



施策評価シート												
1. 施策の情報整理												
施 策 名		特色ある学校づくりの支援										
現状と課題		学力向上と家庭・地域と連携した安全で信頼される学校づくりや児童生徒の減少に伴う学校規模の適正化、学校の適正配置の検討及び地域の教育的資源の学校への有効活用が求められているなかで、望ましい学校教育の在り方、学校規模の適正化、学校の適正配置に関する考え方をまとめて進めていくこと。また、地域や住民と連携協力を図りながら積極的な教育活動を推進し、地域住民の意見を反映した学校づくりが推進されるようにする。										
施策の 情報 整理	目指す成果		各小・中学校が、その学校運営や教育活動の情報発信・提供を行い、保護者や地域住民参加の「特色ある学校づくり」を推進できる。 教職員人事の適正な執行と配置により学校運営が安定する。望ましい学校教育のあり方、学校の適正化、適正規模に関する基本的な考え方をまとめる。									
	施策の目指す成果 指標及び実績		指標		平成23年度 上段(目標値) 下段(実績値)		平成22年度 上段(目標値) 下段(実績値)		目標数値の説明			
			学校評議員等各学校に応じた人材の派遣と確保		100%		100%		学校評議員の配置、中学校外部指導者や学校支援ボランティアの活用率			
					100%		100%					
	成果目標の達成度 (★★★)		★★★		目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%)★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —		施策 の 事業 費		予算額		7,421千円	
									決算額		6,496千円	
	達成度の判断理由		各学校とも学校評議員の設置し、学期ごとに学校運営に対して意見を伺い、参考とすることができた。各中学校の外部指導者、各小中学校において学校支援ボランティアやゲストティチャーとして地域等の協力を得て、学校運営の支援をすることができた。									
	設定成果指標以外に現れた成果の説明		栄町の望ましい学校規模・学校配置に関する基本的な考え方のパブリック・コメントの募集と各小学校地区ごとの説明会を実施し、それぞれの意見を踏まえ、栄町学校規模適正化検討委員会から「栄町立小・中学校の学校規模の適正化について」の答申が出された。									
	今後の課題と対応		栄町立小・中学校の学校規模の適正化について、栄町学校規模適正化検討委員会から答申を受け、教育委員会で答申内容を多方面から検討し、基本方針を定めた。平成27年度の統合に向けて、地区説明会を順次開催し、施設整備などあらゆる条件整備について関係課と検討していく。また、保護者や地域住民の参加の「特色ある学校づくり」を推進し、地域ぐるみで子どもを育てる体制と学校支援ボランティアの組織化を図っていく。									
	2. 事務事業の取り組み											
(単位:千円)												
事務事業名		事業の取組実績		事業の評価(達成できなかった課題と今後の方向性)				事業費				
①	特色ある学校づくり推進事業	学校評議員を全校に配置した。地域住民などによる教育活動の充実のための学校支援を推進した。栄町教育振興会に補助金を交付し、その活動を支援した。小学校3校に日々雇用職員により学校用務員の配置を行った。学校の健康教育・情操教育・学校安全等の指導・助言を行った。		【今後取り組む方向性】 特色ある学校づくりのために、学校運営の支援を行っている。				H22予算	1,346			
								H22決算	3,757			
								H23予算	6,357			
								H23決算	5,684			
②	教職員人事の適正事務事業	教職員の昇給内申事務、産休・育休に関する業務、履歴事項に関する業務など教職員の服務に関する業務を適切に行った。教職員の適正配置、適正な学級編制を実施した。		【今後取り組む方向性】 教職員の服務等関わる業務を適切に行っていく。教職員の適正配置を行っていく。				H22予算	164			
								H22決算	156			
								H23予算	164			
								H23決算	1			
③	学校支援地域本部事業	平成21年度より竜角寺台小学校が実施し、23年度新たに安食小学校、北辺田小学校が学校支援地域本部を設立し、コーディネーターを配置し、学校を支援するボランティアの組織化に取り組んでいる。		【達成できなかった課題】 コーディネーターの配置には至ったものの、地域への事業周知不足によりボランティアの増加につながらなかった。 【今後取り組む方向性】 組織の安定化を図りながら、地域と学校の橋渡し役となるコーディネーター研修を実施し、コーディネーターを育成するとともに事業の取り組みを地域に発信できる仕組みを構築していく。				H22予算	2,573			
								H22決算	882			
								H23予算	900			
								H23決算	811			
合 計								H22予算	4,083			
								H22決算	4,795			
								H23予算	7,421			
								H23決算	6,496			

施策評価シート									
1. 施策の情報整理									
施策名		きめ細かな教育活動の推進							
現状と課題		学力に関する社会の関心の高まりや保護者の教育への要望の多様化を背景に、指導法改善と教職員の資質向上と、個に応じた教育が求められている。創意と活力のある教育活動の中で、児童生徒の学力向上を目指し、基礎・基本の習得及び活用能力の育成と個性を活かすきめ細かな学校教育を推進する。							
施策の情報整理	目指す成果		豊かな心を持ち、社会の変化に対応したくましく生きる児童生徒の育成をめざして、基礎・基本の徹底、思考力・表現力・判断力の育成を図りながら、一人一人の個性を活かした学校教育が展開される。						
	施策の目指す成果 指標及び実績	指標		平成23年度 上段(目標値) 下段(実績値)	平成22年度 上段(目標値) 下段(実績値)	目標数値の説明			
		各学校に応じた学校支援教員等の配置		100%	100%	学校支援教員(学校補助教員・特別支援教育補助員の名称を統合した)等の日々雇用職員を学校に応じて配置する人数の配置率			
	成果目標の達成度 (★★★)	★★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%)★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —		施策の 事業費	予算額	33,924千円		
			決算額	32,235千円					
	達成度の判断理由		学校支援教員(学校補助教員と特別支援教育補助員の名称を統合)、介助員、外国人指導助手、国際理解教育指導員などきめ細かな教育のための人員配置を各学校の状況に応じて行った。個別支援指導員2人を小学校2校に配置した。(外国語指導助手を各中学校に配置した。国際理解教育指導員4人を小学校6校へ配置。教育支援センター指導員を常勤1人、非常勤1人配置。学校司書4人を8校に配置。小学校スクールカウンセラー2人を小学校6校に配置。教育相談員を教育支援センターに配置した。各員の配置により学校の教育活動を支援することができた。						
	設定成果指標以外に現れた成果の説明								
	今後の課題と対応		子どもたち、一人ひとりがこれからの社会を支え創造する大切な存在です。子どもたちが社会を支える町民となるために、あいさつ、早寝・早起き・朝ごはんに始まる基本的な生活習慣を身につけさせる。また、学力の向上を目指し、基礎・基本の習得とそれらを活用する能力の育成、意欲の醸成、健康・体力の涵養を発達段階に応じて育むため、学校支援教員、介助員、外国人指導助手、国際理解教育指導員などの人的支援を継続して行う。教職員に新しい時代に対応した課題や、直面する教育課題に対応した研修会の企画・立案・実施や、学校への指導助言を行っていく。						
2. 事務事業の取り組み									
(単位:千円)									
事務事業名		事業の取組実績		事業の評価(達成できなかった課題と今後の方向性)				事業費	
①	国際化に対応した人間教育事業	中学校には外国語指導所助手(ALT)を、小学校には国際理解教育指導員をして配置し、各学校の英語活動の指導の支援を行った。		【今後取り組む方向性】 ALT、国際理解教育指導員を各校に継続して配置し、コミュニケーション能力の基礎の育成とコミュニケーションを図る楽しさが味わえる活動の充実を図っていく。				H22予算	4,116
								H22決算	4,040
								H23予算	4,424
								H23決算	4,317
②	個に応じた授業改善推進事業	各校の状況に応じて、学校支援教員、介助員を配置した。就学指導委員会を開催し、答申により適正な就学指導を行った。学力向上アドバイザーを配置し、授業改善等に役立てた。栄町学習道場わくわくドラムを夏期休業中に開き、子どもたちの学力向上を支援した。緊急雇用事業により個別支援指導員を小学校2校に配置し配慮の必要な児童を支援した。		【今後取り組む方向性】 学校の児童生徒の状況に応じ、子どもの学力向上、学習意欲向上のため町雇用職員を適切に配置していきたい。				H22予算	17,768
								H22決算	16,840
								H23予算	19,380
								H23決算	18,496
③	心の教育支援事業	教育相談体制として教育相談員、小学校スクールカウンセラー、教育支援センターに指導員を配置し、教育相談等を行った。小・中学校生徒指導担当者会議を計画的に開催し、情報の共有を図り、生徒指導の助言を行った。道徳教育について指導・助言した。緊急雇用事業により学校図書館司書を各校に配置し整備を図った。		【今後取り組む方向性】 児童・生徒の学習意欲の向上と豊かな心を育むため、学校図書館司書を継続して配置する。不登校、不適応等の問題に対応するため、教育相談体制も継続して実施する。				H22予算	7,244
								H22決算	6,828
								H23予算	9,162
								H23決算	8,602
④	学校教育を担う人材の育成支援事業	各学校の校内研修会の開催の支援をした。教職員の資質向上支援のため、各種教職員の所属する専門性を高める研修会の負担金を補助を行い、教育課題に対応できるよう各種研修会を開催し、資質向上に努めた。		【今後取り組む方向性】 教職員の資質向上のため、各種研修会の企画、実施と参加の支援を継続する。				H22予算	1,526
								H22決算	1,319
								H23予算	958
								H23決算	820
合 計						H22予算	30,654		
						H22決算	29,027		
						H23予算	33,924		
						H23決算	32,235		

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施 策 名		教育施策の総合的な推進							
現状と課題		教育委員会議定例会を、適切な時期に適正に開催することができ、円滑な教育行政を運営している。また、児童・生徒及び教員がより良い環境で学習することができるよう、学校予算を適正に管理し、事務機器等の不具合を適切に処理した。今後は、現状を維持しつつ、教育委員研修会の充実及び各学校の行事に引き続き参加を求める。							
施策の 情報 整理	目指す成果	教育委員会、学校、その他の教育機関を適正管理し、円滑な教育行政が行われている。また、児童・生徒及び教員がより良い環境で学習することができるようになっている。							
	施策の目指す成果 指標及び実績	指標		平成23年度 上段(目標値) 下段(実績値)		平成22年度 上段(目標値) 下段(実績値)		目標数値の説明	
		物質的不具合の不備の未処理数		0件		0件			
				0件		0件			
	成果目標の達成度 (★★★)	★★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%)★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —		施策 の 事 業 費	予算額		40,129 千円	
						決算額		38,681 千円	
	達成度の判断理由	物質的不具合の処理はすべて行い、児童・生徒及び教員の学習に支障をきたすことがなかった。							
	〔設定成果指標 以外に現れた 成果の説明〕								
今後の課題と対応		地方教育行政の取り巻く環境はめまぐるしく変わってきているため、さまざまな方面からのニーズへの対応が山積している。課題の的確な把握が必要とされる社会情勢を鑑みながら、適正に教育委員会議を開催していく必要がある。また、児童・生徒及び教職員が 良好な環境の中で学習できるよう対応していく。							

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名		事業の取組実績	事業の評価(達成できなかった課題と今後の方向性)	事業費	
①	教育総務管理事業	教育委員会議定例会を適切に開催することができた。	【今後取り組む方向性】 地方教育行政の取り巻く環境はめまぐるしく変わってきているため、さまざまな方面からのニーズへの対応が山積している。課題の的確な把握が必要とされる社会情勢を鑑みながら、適正に教育委員会議を開催していく必要がある	H22予算	1,921
				H22決算	2,657
				H23予算	3,379
				H23決算	3,212
②	学校用備品管理事業	より良い学校生活が送れるよう学校間の消耗品などの共有化等を考えながら予算を適正に執行・管理した。また、老朽した機器の入替を実施した。	【今後取り組む方向性】 児童・生徒及び教職員が 良好な環境の中で学習できるよう対応していく。	H22予算	39,153
				H22決算	34,709
				H23予算	36,750
				H23決算	35,469
合 計				H22予算	41,074
				H22決算	37,366
				H23予算	40,129
				H23決算	38,681

施策評価シート										
1. 施策の情報整理										
施 策 名		情報通信機器の整備								
現状と課題		21年度予算のICT整備事業により、教員用PCと普通教室、PC教室については入替を実施した。セキュリティを確保しながら、高速なインターネット環境を実現した。また、普通教室は地上波デジタル放送受信テレビの入れ替えを行った。 特別教室とインターネット用PC等については古いものの使いまわしにより対応しているが、故障が多く発生している。								
施策の 情報 整理	目指す成果		情報化社会において必要とされる知識、技術を身に付けさせ、時代に即した適確な教育ができるように整備をする。							
	施策の目指す成果 指標及び実績	指標		平成23年度 上段(目標値) 下段(実績値)		平成22年度 上段(目標値) 下段(実績値)		目標数値の説明		
		壊れて使用できない台数		0台		0台				
				0台		0台				
	成果目標の達成度 (★★★)	★★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%)★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —		施策 の 事業 費	予算額		256千円		
						決算額		249千円		
	達成度の判断理由		教務及び事務用情報通信機器の内インターネット用PCの入れ替え予算がなかったため、既存の機器を再生して各校へ再配置したため、故障の発生率が高いが、現在壊れて使用できないPCはないため達成度は100%							
	設定成果指標 以外に現れた 成果の説明									
今後の課題と対応		教務及び事務用インターネット用PC及び特別教室用PCは既存の機器を再生して各校へ再配置したが、使用期間が8年ほど経過しており、故障の発生率が高く、代替え機(再生品)により対応しているが早急に入替の必要がある。								
2. 事務事業の取り組み										
(単位:千円)										
事務事業名		事業の取組実績		事業の評価(達成できなかった課題と今後の方向性)				事業費		
①	情報通信機器整備 事業	教員用、普通教室、PC教室、特別教室 とインターネット用PC及び情報通信機器の 保守を行った。		【達成できなかった課題】 教務及び事務用インターネット用PC及び特別教室用PCの 入替。 【今後取り組む方向性】 学校規模適正化を考慮しながら、教務及び事務用インター ネット用PC及び特別教室用PCの入替を進める。			H22予算	94,090		
							H22決算	94,081		
							H23予算	256		
							H23決算	249		
②							H22予算			
							H22決算			
							H23予算			
							H23決算			
合 計							H22予算	94,090		
							H22決算	94,081		
							H23予算	256		
							H23決算	249		

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施 策 名		情報共有の推進							
現状と課題		インターネットの普及に伴い、ホームページを活用した正確且つ迅速な情報の提供、豊富な情報量が求められている。							
施策の 情報 整理	目指す成果	教育委員会の情報が欲しい人がいつでもどこでも欲しい情報を入手することができるようになっている。							
	施策の目指す成果 指標及び実績	指標		平成23年度 上段(目標値) 下段(実績値)		平成22年度 上段(目標値) 下段(実績値)		目標数値の説明	
		ホームページのアクセス数		40件／日		40件／日		教育委員会トップページのアクセスカウンターの数値	
				43件／日		43件／日			
	成果目標の達成度 (★★★)	★★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%)★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —		施策 の 事業 費	予算額	0 千円		
			決算額	0 千円					
	達成度の判断理由	教育委員会トップページのアクセスカウンターの数値は目標を達成しているが、担当教職員の取り組みに格差があり、適時に更新されていないページもある。							
	設定成果指標 以外に現れた 成果の説明								
今後の課題と対応	栄町ホームページのリニューアル、CMS導入に伴い、教育委員会ホームページもCMSを導入したことにより更新方法が変わったことから、職員に対し、更新方法の指導が必要になる。								

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名		事業の取組実績	事業の評価(達成できなかった課題と今後の方向性)	事業費	
①	教育委員会広報事業	教育委員会及び各小中学校のホームページを開設し情報を発信する。	【今後取り組む方向性】 引き続き、正確且つ迅速な情報の提供に努める	H22予算	0
				H22決算	0
				H23予算	0
				H23決算	0
②				H22予算	0
				H22決算	0
				H23予算	0
				H23決算	0
合 計				H22予算	0
				H22決算	0
				H23予算	0
				H23決算	0

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施 策 名		学習環境の整備・充実					
現状と課題		学校施設は子どもたちの教育を行う場所であるのみならず、地域コミュニティ育成の場や災害時の避難場所としても利用されるものであり、常に安全が確保されていなければなりません。本町では、北辺田小学校の校舎及び体育館を除いて学校施設の耐震化を完了していますが、この2施設についても、耐震化を進めていく必要があります。					
施策の 情報 整理	目指す成果	児童・生徒及び教職員がより良い施設環境で学習することができ、安心して学校生活を送れるようにする。					
	施策の目指す成果 指標及び実績	指標		平成23年度 上段(目標値) 下段(実績値)	平成22年度 上段(目標値) 下段(実績値)	目標数値の説明	
		学校施設整備の件数(耐震化の必要棟数 に対する整備率)		100%	100%	学校施設の耐震化については、北辺田小学校の 校舎及び体育館の2施設が未整備であるので全 体として目標をほぼ達成とした。	
				90.50%	90.50%		
	成果目標の達成度 (★★★)	★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%)★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —		施 策 の 事 業 費	予算額	36,534 千円
						決算額	36,029 千円
	達成度の判断理由	北辺田小学校の校舎及び体育館の耐震化については、平成23年度に体育館の耐震診断を行い耐震化が必要な建物と判定されました。判定結果に伴い、耐震補強工事等が平成24年度以降に実施されるため。					
	設定成果指標 以外に現れた 成果の説明						
今後の課題と対応	子どもたちや地域住民の生命の安全のために、北辺田小学校校舎及び体育館の耐震化を図る必要がある。 余裕教室については、学校教育以外での利用も含め有効利用が図れるよう検討していく。 北辺田小学校校舎及び体育館の耐震補強工事については、総合計画に位置づけており平成24年度に耐震補強設計、25年度に耐震補強工事を実施することにより、町内すべての学校施設の耐震化が完了するものです。						

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名		事業の取組実績	事業の評価(達成できなかった課題と今後の方向性)	事業費	
①	学習環境整備事業	児童・生徒の学習環境を計画的に整備するため、小学校5年生及び中学校2年生用の机・椅子(330セット)を購入した。	【今後取り組む方向性】 平成24年度については、小学校4年生及び中学1年生用の机・椅子(310セット)を購入し、平成25年度以降、小学生1年生から3年生用の机・椅子(380セット)を購入する予定です。	H22予算	10,288
				H22決算	10,194
				H23予算	9,337
				H23決算	9,336
②	学校教育施設整備事業	学校施設の修繕については、国の臨時交付金等を活用し大規模な修繕を行い、建物の維持管理は、必要最小限の法定点検を実施した。	【今後取り組む方向性】 児童生徒及び教職員がより良い環境で学習することができるよう、学校規模適正化に併せて学校施設の整備を進めていきます。また、北辺田小学校の校舎及び体育館の耐震化を図ります。	H22予算	36,884
				H22決算	30,728
				H23予算	27,197
				H23決算	26,693
合 計				H22予算	47,172
				H22決算	40,922
				H23予算	36,534
				H23決算	36,029

施策評価シート

施 策 名	学習環境の整備・充実
-------	------------

現状と課題		就学事務、転入学、転退学事務は正確に速やかに取り組む。児童生徒、教職員の定期健康診断を計画的に実施し、疾病の早期発見に努める。特に結核検診は万全を期す。就学支援事業が適切に遂行されているか進捗状況を確認する。国の基準が改正され私立幼稚園就園奨励費が高額となっており、それに伴い一般財源が圧迫されていくと考えられる。				
施策の 情報整理	目指す成果	児童・生徒及び教員がより良い環境で学習することができ、健康面でも安心して学校生活が送れるようになっている。 また、経済的に困窮している世帯でも安心して学校に通わせることが出来るようになっていることから、町民としての自覚が生まれ、自他を愛し、町を愛する心が育まれている。				
	施策の目指す成果 指標及び実績	指標	平成23年度 上段(目標値) 下段(実績値)	平成22年度 上段(目標値) 下段(実績値)	目標数値の説明	
		学校予算の適正執行、児童生徒教員の 定期健康診断の実施	100%	100%	学校予算の有効活用と適正な執行率、健康で 安心な学校生活が送れるよう行う健康診断の 実施率	
			100%	100%		
	成果目標の達成度 (★★★)	★★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%)★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策の 事業費	予算額	62,142千円
					決算額	60,427千円
	達成度の判断理由	学校予算を適正に執行し、児童生徒の学習環境を整えられた。児童生徒教職員の定期健康診断等を実施し、健康な学校生活を送れるようにすることができた。経済的に困窮している児童生徒に適切な教育援助が行えた。支給対象者に私立幼稚園就園奨励費を支給した。				
設定成果指標 以外に現れた 成果の説明						
今後の課題と対応	例年と同じく就学事務、転入学、転退学事務は正確に速やかに取り組む。児童生徒、教職員の定期健康診断を計画的に実施し、疾病の早期発見に努める。就学支援事業については、就学援助の申請が増加している現状を踏まえ、現状の把握に努め、的確な判断と適切な事務を行う。また、就学援助が適切に遂行されているか確認する。国の基準が毎年改正されているので、規則の改正を行い、私立幼稚園就園奨励費の該当保護者に対して適切に支給する。児童生徒及び教職員がより良い環境で学習することができ、健康面でも安心して学校生活が送れるようにする。					

1. *Journal of Management Studies*, 1997, 34, 1, 1-14.

事務事業名		事業の取組実績	事業の評価(達成できなかった課題と今後の方向性)	事業費	
①	就学事務の適正化推進事業	学校教育法に基づき、就学指定校の変更、区域外就学に関する業務、入学通知に関する業務を適切に行った。小学校への就学前児童の就学时健康診断に関する事務についても、入学通知業務同様に転出入の管理をして正確に行った。就学に関わる事務を適切に行った。	【今後取り組む方向性】 引き続き就学に関する事務を適切に行っていく。	H22予算	559
				H22決算	541
				H23予算	612
				H23決算	588
②	児童・生徒関係事業	学齢簿に関する業務として、就学予定者と転入児童生徒の学齢簿を新規に作成した。また、転出入児童生徒の学齢簿記載事項の変更について、加除訂正を適切に行い、該当校長に通知した。児童生徒の転入・転退学の管理事務を適切に行った。	【今後取り組む方向性】 引き続き学籍に関する事務を適切に行っていく。	H22予算	0
				H22決算	0
				H23予算	0
				H23決算	0

③	学校保健事業	児童生徒に内科検診・歯科検診・眼科検診・耳鼻科検診・ぎょう虫卵検査・脊柱側彎症検診・心電図検査・結核検診・尿検査を実施した。所見のある児童生徒については、結核精密予防検診・学校検尿第三次精密検査を行った。中学1年生、小学校5年生に生活習慣病予防検診を行った。教職員健康診断等を実施した。各事業を円滑に実施した。	【今後取り組む方向性】 学校保健衛生事業として、児童・生徒、教職員の健全な育成を図り、災害共済給付業務、健康管理、学校保健等の事務を行っていく。	H22予算	6,137
				H22決算	5,704
				H23予算	6,070
				H23決算	5,803
④	学校衛生事業	学校給食の配膳に関わる学校用務員の細菌検査を行った。夏休み中に学校配膳室の害虫駆除を実施した。用務員及び配膳室の衛生管理を徹底した。食中毒もなく清潔な状態が保たれた。	【今後取り組む方向性】 学校保健衛生事業として、児童・生徒、教職員の健全な育成を図り、災害共済給付業務、健康管理、学校保健等の事務を行っていく。	H22予算	236
				H22決算	235
				H23予算	296
				H23決算	295
⑤	災害共済給付事業	学校の管理下の児童生徒の災害に対応する日本スポーツ振興センターの掛金の納付、給付金の請求事務を正確に処理した。給付請求に係る事務のオンライン化により迅速、正確且つ簡便に災害給付手続きが実施できた。	【今後取り組む方向性】 学校保健衛生事業として、児童・生徒、教職員の健全な育成を図り、災害共済給付業務、健康管理、学校保健等の事務を行っていく。	H22予算	1,413
				H22決算	1,369
				H23予算	1,360
				H23決算	1,336
⑥	学習環境整備事業	教科書の給与業務と小学校の教科書改訂に伴う指導用教材備品を購入し整備した。中学校全国大会出場の部活動補助金を交付した。校外学習等に必要な町バスや借り上げバスでの調整を行った。各学校へ予算配当し適切に執行管理を行った。各学校の学習環境が充実するように適正な事務を行った。	【今後取り組む方向性】 安全・安心な学校生活を送り、充実した教育が受けられるように整備を行っていく。	H22予算	25,656
				H22決算	22,333
				H23予算	23,916
				H23決算	23,771
⑦	就学支援事業	学校教育法に基づき、経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、教育委員会会議で認定を受け、必要な援助を行った。同じく特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に対し、経済的負担を軽減するため、負担の能力に応じ、就学に必要な援助を行った。公正な事務を行った。	【今後取り組む方向性】 学校、民生委員と連携し、申請のあった児童・生徒及び保護者の状況を見極め、不正受給のないよう適正に事務を行う。	H22予算	5,519
				H22決算	5,760
				H23予算	6,463
				H23決算	6,327
⑧	私立幼稚園就園奨励費補助事業	私立幼稚園に通園している町内在住の園児の保護者に対し、経済的負担を軽減するため、負担能力の程度(世帯構成と町民税所得割課税を確認)に応じ、保育料の所要経費の一部を補助した。222件	【今後取り組む方向性】 年少扶養廃止に伴い、保護者の負担が増加することから、国の動向に合わせ補助単価を引き上げる必要がある。	H22予算	24,667
				H22決算	20,066
				H23予算	23,425
				H23決算	22,307
⑨	調査・統計事業	学校基本調査、学校教育実態調査等の各種調査研究関係について、正確に事務を行った。	【今後取り組む方向性】 今後も国・県からの依頼によって、継続して取り組む。	H22予算	0
				H22決算	0
				H23予算	0
				H23決算	0
合 計				H22予算	64,187
				H22決算	56,008
				H23予算	62,142
				H23決算	60,427

施策評価シート									
1. 施策の情報整理									
施 策 名		学校給食の充実							
現状と課題		栄養士が中心となり、栄養指導を実施しているが、献立により残菜に大きな差が生じている。 調理場施設・設備の経年劣化により、修繕箇所が年々増加している。 給食費の滞納が発生しており、保護者負担の公平性が求められている。 東日本大震災における原子力災害により、放射性物質が拡散し、農作物等への影響が生じており、より一層学校給食における安全・安心の確保が求められている。							
施策の 情報 整理	目指す成果	児童・生徒やその保護者は、給食が安全な食材を使用し、衛生的に作られていることを知っており、栄養バランスの大切さについても理解している。また、地元の生産者や食材を知っており、給食にどのように使われているかについての理解しているため、残さずに食べようという意識が育っている。							
	施策の目指す成果 指標及び実績	指標		平成23年度 上段(目標値) 下段(実績値)		平成22年度 上段(目標値) 下段(実績値)		目標数値の説明	
		児童・生徒の給食を食べた量の割合(%)		90%		90%		供給量に対する残菜の量	
				78%		87.00%			
	成果目標の達成度 (★★★)	★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%)★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —			施策 の 事業 費	予 算	155,009 千円	
							決算額	153,328 千円	
	達成度の判断理由	各学校に栄養指導に入り、児童・生徒だけではなく試食会等を活用し保護者への食の指導を行い、食習慣を見直してもらう機会を設けたが、残菜量は増加してしまい、目標の達成はできなかった。							
設定成果指標 以外に現れた 成果の説明									
今後の課題と対応	施設維持管理事業：調理場内の設備の改修が懸念されるものの、点検結果等により、適正な修繕を計画的に進めていく。 給食費徴収事業：督促や催告をしても徴収のできない悪質な未納者に対して、法的措置を考えていく。 給食事業：元気さかえ食育推進プランにより、学校、家庭、地域が一体となり子ども達が自らの食について考え、選択する判断力を身につかせ、生涯を通じて健全な食生活をおくれるよう指導していくことで、残菜量を確実に減らしていく。また、安全で安心な給食サービスを提供するため食材の放射性物質検査を実施する。								
2. 事務事業の取り組み									
(単位:千円)									
事務事業名		事業の取組実績		事業の評価(達成できなかった課題と今後の方向性)				事業費	
①	施設維持管理事業	定期点検以外にも、施設・設備の点検を頻繁に行うことで修繕箇所の早期発見に努め、計画的な修繕を実施した。		【今後取り組む方向性】 施設・設備の経年劣化が進んでいるため、法定点検の実施のほか、職員等による点検整備や修繕も随時行っていく。				H22予算	27,425
								H22決算	24,040
								H23予算	8,763
								H23決算	8,007
②	給食費徴収事業	給食費の適正な賦課を行い、未納者には督促・催告、臨戸徴収等を実施し、滞納額の減少に努めた。また、子ども手当からの徴収も行った。		【達成できなかった課題】 未納者への督促・催告、臨戸徴収等を実施したが、収納率の向上が見られなかった。 【今後取り組む方向性】 引き続き、未納者への督促・催告、臨戸徴収等を実施するとともに児童手当からの徴収について保護者の理解を求めていく。また、悪質な未納者への法的措置も考えていく。				H22予算	198
								H22決算	151
								H23予算	166
								H23決算	129
③	給食事業	徹底した衛生管理のもと、安全で安心な給食を提供した。また、栄養指導により、たくさんの種類の食材を偏りなく食べることの大切さについて、指導を行った。		【達成できなかった課題】 栄養指導等により、残菜の減少に努めたが、結果的に摂取率の向上が見られなかった。 【今後取り組む方向性】 学校、家庭、地域が一体となり児童・生徒や保護者への食に関する指導の場を持ち、食習慣の改善を促していく。また、異物混入の未然防止、食中毒等の予防に努めるとともに、食材の放射性物質検査を実施し、安全・安心な給食の提供を行っていく。				H22予算	147,155
								H22決算	143,515
								H23予算	146,080
								H23決算	145,192
合 計								H22予算	174,778
								H22決算	167,706
								H23予算	155,009
								H23決算	153,328

学識経験者の意見（基本方針（１）について）

【施策名：特色ある学校づくりの支援】

- ・ 学校支援地域本部事業はうまく機能すると非常にすばらしい事業なので、積極的に進めるべきである。
- ・ 学力向上というのが大きな目標になると思うが、ピンポイント的に強化すべきところが明らかになってこない、力の入れ具合がわからないので再考する必要がある。
- ・ 学力向上の中心になるのは教師なので、今後、特に若年層の教員の育成に力を入れるべきである。

【施策名：きめ細やかな教育活動の推進】

- ・ わくわくドラムに参加する子どもたちがどんどん増えていい傾向だが、更に増えた場合、かなりたくさんの支援者を確保すべきである。
- ・ 学力スタンダードについて触れていないが、成果として出すべきである。
- ・ 成果を見るとときに、成果はどう表れているかを明確にしなければならないので、わくわくドラムに来た子たちと、来なかった子たちと伸び率の比較など、数値化すべき。できるだけ具体的なものを出していかなければいけない世の中になってきた。
- ・ たくましく生きていく力が、前に比べると弱くなってきていて、ちょっとしたことで挫折をしたり、問題が大きくなったりしているように思う。支援を要する子どもたちに手厚くサポートするとともに、子どもたち全体に対して、しぶとく、たくましく強く生きられるような力を養成する施策を出すべきである。

【施策名：教育施策の総合的な推進】

- ・ 物質的不具合の不備の未処理数が０件で、学校も助かるので今後も努力されたい。
- ・ 不備の未処理数が０件だと、処理した数がどのくらいあったのかわからないので、指標の出し方を検討されたい。

【施策名：情報通信機器の整備】

- ・ 情報通信機器の世界は日進月歩なので、予算の獲得に努力されたい。

【施策名：情報共有の推進】

- ・ ホームページが更新されていない学校に対しては、教育委員会から指導していくべきである。
- ・ 情報共有の推進をホームページへのアクセス数だけで判断していいのか、ホームページの内容が、いつでもどこでも欲しい情報になっているかどうかの検討も必要である。

【学習環境の整備・充実】

- ・ 平成 25 年度に実施される北辺田小学校の校舎・体育館の耐震化工事をもって町内すべての学校施設の耐震化が完了することは、大変喜ばしい。今後は学校規模適正化に伴う学習環境の整備・充実に努めてもらいたい。
- ・ 余裕教室の有効活用をするべきである。

- ・就学支援は本当に必要とされている人に出すものなので、引き続き適正に調査されたい。
- ・町の将来の発展に人口の確保は不可欠。特に、新興団地では高齢化は顕著で、栄町の小中学校で教育を受けた人たちの栄町離れがそれに拍車をかけているように思われる。若者が育てられ育った栄町に定住できるような環境づくりを、他部署と連携して推進されたい。

【学校給食の充実】

- ・残菜が減らないのは、どこが原因なのかを話し合ったり意見を聞いたりすべきである。
- ・地元のものを積極的に使うよう努力されたい。
- ・給食費の未納対策は難しい問題だが、より一層努力されたい。
- ・食育の一環として、立地条件の良さを活用し、主食のコメを始め、食材を育てる体験学習の機会を増やすべきである。残菜量の原因には児童・生徒の偏食が大きく関与していることは確かだと思うが、食材を作り出すことの大変さを経験することが「もったいない」精神の育成に繋がる。
- ・保護者は食材の放射能について関心があるので、今後も確認と情報提供に努めるべきである。

基本方針（２）

生涯学習とスポーツを通して、心身ともに健康で生きがいのある生活と心のかよう地域社会をつくとともに、地域の教育力を生かした子どもたちの健全育成を推進します。

【施 策 名】

- ・生涯学習環境の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1 6
- ・青少年健全育成事業の充実・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1 7
- ・生涯学習資料の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1 8
- ・スポーツ振興事業の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1 9

○学識経験者の意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2 0



施策評価シート									
1. 施策の情報整理									
施 策 名		生涯学習環境の充実							
現状と課題		個人の趣味や関心に基づく個人的な学習活動のみならず、社会全体の知識基盤を強固にするための、社会や地域課題に取り組む学習を支援していく必要性がある。 民間事業者等の活動のみでは得られない学習機会や情報を、行政が積極的に提供する必要がある。 協働のまちづくりを視野に入れ、学習成果を地域に還元する取組を支援することが重要となっている。							
施策の 情報 整理	目指す成果	学習の場を提供することにより、学習したことをまちづくりに生かし、行政と住民が一体となったまちづくりを行う。							
	施策の目指す成果 指標及び実績	指標		平成23年度 上段(目標値) 下段(実績値)	平成22年度 上段(目標値) 下段(実績値)	目標数値の説明			
		年間講座開催数		60講座	60講座	いきいき塾さかえ事業 26講座 学習アドバイザー事業 11講座			
				37講座	62講座				
	成果目標の達成度 (★★★)	★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%)★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —		施策 の 事業 費	予算額	248千円		
					決算額	242千円			
	達成度の判断理由	町民へ数多くの学習の場を提供することを目標としていたため、開催数のみで判断するとすれば目標を達成していない。							
	設定成果指標 以外に現れた 成果の説明	前年度から引き続き計画していた講座(ヨガ教室)が、参加者の自主的なサークル活動として新たにスタートした。 各講座受講者に対し受講アンケートを行った結果、受講した満足度が全体で89%という数字が表れた。							
	今後の課題と対応	・多様な学習情報の提供 町民の学習ニーズはますます多様化していることから、行政だけでは対応には限界があり、今後は、町が提供する学習機会の他、様々な分野で活躍する人材や、住民活動団体等から提供される学習機会を通じて、町民があらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができる環境づくりを進めていく。							
	2. 事務事業の取り組み								
(単位:千円)									
事務事業名		事業の取組実績		事業の評価(達成できなかった課題と今後の方向性)				事業費	
①	生涯学習推進事業	次代を担う子ども達にものづくりを通して 創意工夫を奨励し、豊かな感性を養わせる ため「わくわく陶芸教室」を開催するなど、 子どもを対象にした講座を新たに企画し た。		【達成できなかった課題】 団塊の世代の活動支援や再チャレンジ支援など、社会的 な課題に対応した学習機会の提供 【今後取り組む方向性】 各種学習講座、イベントの開催や学習情報の積極的な発 信 魅力ある講座の開催による受講者満足度の向上				H22予算	350
								H22決算	340
								H23予算	248
								H23決算	242
②								H22予算	
								H22決算	
								H23予算	
								H23決算	
合 計								H22予算	350
								H22決算	340
								H23予算	248
								H23決算	242

施策評価シート									
1. 施策の情報整理									
施 策 名		青少年健全育成事業の充実							
現状と課題		核家族化や少子化の進行、就業構造の変化など家庭を取り巻く環境が大きく変化している中で、家庭の教育力の低下が指摘されている。 有害情報の氾濫等による生活環境の悪化や青少年を巻き込んだ犯罪の発生、更にはひきこもり、不登校等の子どもたちが抱える精神的問題の深刻化などを背景として、地域の教育力の低下が危惧されている。 次代のまちづくりを担う子どもたちが豊かな人間性を育むことができるよう、学校・家庭・地域は、「学び」や「育ち」を支えるためのそれぞれの役割と責任を自覚し、相互の連携と協力のもとに地域全体が積極的に関わっていく体制を構築する必要がある。							
施策の情報整理	目指す成果		子供たちが、地域の人達に見守られながら伸び伸びと元気に暮らしている。						
	施策の目指す成果 指標及び実績	指標		平成23年度 上段(目標値) 下段(実績値)		平成22年度 上段(目標値) 下段(実績値)		目標数値の説明	
		地域ふれあい推進委員等の活動小学校 区数		6小学校区		6小学校区		ふれあい推進委員等活動 6小学校区	
				6小学校区		6小学校区			
	成果目標の達成度 (★★★)	★★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%)★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —		施 策 の 事 業 費	予算額		2,006 千円	
						決算額		1,706 千円	
	達成度の判断理由		子どもたちが地域の大人たちとの交流や様々な体験を通して、豊かな人間性を育むことができるよう、地域のふれあい推進委員が行う活動が円滑に進むための支援した。【北辺田小・酒直小・布鎌小・安食台小】 地域全体で学校を支える学校支援ボランティア活動の取り組みを推進した。【安食小・竜角寺台小】						
	設定成果指標 以外に現れた 成果の説明								
今後の課題と対応		・地域の教育資源(人材・文化・自然等)の有効活用 従来の青少年健全育成事業という枠を超えて、子どもたちを健やかに育むため、地域全体で教育に取り組む体制づくりを目指す必要があることから、地域教育力活用・支援事業として新たに位置づけた。 24年度からは、①放課後に子どもたちが安心して活動できる場を確保し、地域の大人の協力を得て、子どもたちとともに勉強・スポーツ・文化活動等の交流活動を実施し、地域ぐるみで子どもたちを健やかに育む体制を構築する。②町の強みである自然環境を活用し、子どもたちに多様な自然体験活動の機会を提供することにより、健やかな体と豊かな心を育む。 ・家庭や地域と連携した安全安心の確保 子どもたちを危険や犯罪から守る「こども110番の家」に関し、各学校との連携及び情報収集に努めるとともに、協力家庭の募集を強化し、安全安心の輪を広げていく。							
2. 事務事業の取り組み									
(単位:千円)									
事務事業名		事業の取組実績		事業の評価(達成できなかった課題と今後の方向性)				事業費	
①	青少年健全育成事業	ふれあい交流事業については、各ふれあい推進委員会と連携を密にし活動を支援した結果、子どもたちの参加率も高く、地域の大人たちとの交流や様々な体験の機会を提供した。 地域全体で学校を支える学校支援ボランティア活動の取り組みを推進した。		【達成できなかった課題】 ふれあい推進委員会等の主体的運営の推進 青少年関係団体の組織活性化と事業のマンネリ化打破 【今後取り組む方向性】 地域における子どもたちへの学習、遊び、体験などのアドバイザー活動や学校の教育活動に係るボランティア活動の推進を図り、まちづくりを担う人材を育成していく。				H22予算	2,630
								H22決算	2,203
								H23予算	1,998
								H23決算	1,701
②	成人式事業	実行委員を中心に自分たちの手で企画・運営を行い、新成人該当者のうち67.8%の出席者のもと式を挙行した。		【達成できなかった課題】 参加率のUP 【今後取り組む方向性】 魅力のある式の企画・運営				H22予算	15
								H22決算	8
								H23予算	8
								H23決算	5
合 計								H22予算	2,645
								H22決算	2,211
								H23予算	2,006
								H23決算	1,706

施策評価シート										
1. 施策の情報整理										
施 策 名		生涯学習資料の充実								
現状と課題		町民一人ひとりが自分にあった主体的な学習活動を継続して行うためには、様々な知識や情報が適切に入手できるような環境整備が求められており、本町の学習拠点であるふれあいプラザ内図書室は重要な役割を担っている。 今後は、限りある財源の中にあって、地域の課題解決や生活上の問題解決に必要な情報を町民ニーズを捉えながら提供していく必要がある。 学習活動が様々な場所・方法によって実施されていることから、多様な関係者・関係機関が連携しネットワークを効果的に構築するための仕組みづくりを行う必要がある。								
施策の情報整理	目指す成果	住民は利用しやすい環境を整えた図書室で、自らの学習で必要とする図書資料や視聴覚教材などの情報を入手し、知識・教養を高めている。								
	施策の目指す成果 指標及び実績	指標		平成23年度 上段(目標値) 下段(実績値)		平成22年度 上段(目標値) 下段(実績値)		目標数値の説明		
		図書室利用者数		13,000人 15,004人		13,000人 13,238人		図書貸出人数 13,107人 新聞等閲覧人数 1,897人		
	成果目標の達成度 (★★★)	★★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%) ★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —		施策 の 事業 費	予算額	4,966 千円			
						決算額	4,842 千円			
	達成度の判断理由	利用登録者数についても、H19=12,472人、H20=12,842人、H21=13,103人、H22=13,333人、H23=13,614人と年々増加しており、比例して利用者数・貸出冊数とも増加傾向にある。								
	設定成果指標 以外に現れた 成果の説明									
今後の課題と対応	・レファレンスサービスの充実と利用の促進 「地域や住民にとって役立つ図書室」となり、地域の発展に欠かせない施設としての存在意義の確立を目指すために、レファレンスサービスの充実と利用の促進を図ることはもとより、地域の課題解決や生活上の問題解決に必要な資料・情報を積極的に提供し、地域や町民の課題解決を支援していく。 ・児童サービスの充実 子どもの読書活動や学習活動を支援する観点から、図書室ボランティアとの連携を深めていくとともに、学校図書館への支援を積極的に行っていく。									
2. 事務事業の取り組み										
(単位:千円)										
事務事業名		事業の取組実績		事業の評価(達成できなかった課題と今後の方向性)				事業費		
①	図書室管理運営事業	光をそそぐ交付金(2,000千円)を活用して、児童書を中心に蔵書の充実を図った。 利用者の調査研究等に資するとともに、情報活用能力の向上を図ることを目的に、インターネットパソコンを2台設置した。		【達成できなかった課題】 中高校生の利用促進 【今後取り組む方向性】 学校図書館との連携強化 ヤングアダルト本の蔵書充実				H22予算	2,526	
								H22決算	2,525	
								H23予算	4,823	
								H23決算	4,762	
②	読書教育に関する こと	図書ボランティアによる本の読み聞かせ会、おはなし会、人形劇公演を開催した。 (延べ来場300人) 学校に調べ学習や朝読書用の本の貸出を行うとともに、学校図書館司書を対象としたスキルアップ研修会を3回開催した。		【達成できなかった課題】 団体貸出しの促進 【今後取り組む方向性】 学校図書館司書との連携強化				H22予算	0	
								H22決算	0	
								H23予算	0	
								H23決算	0	
③	視聴覚教育に関する こと	柏市視聴覚ライブラリーの閉鎖に伴い、所蔵教材を譲り受け、資料の充実を図った。		【達成できなかった課題】 教材利用の促進 【今後取り組む方向性】 各種団体へのPR 主催子ども映画会の開催				H22予算	42	
								H22決算	41	
								H23予算	143	
								H23決算	80	
合 計								H22予算	2,568	
								H22決算	2,566	
								H23予算	4,966	
								H23決算	4,842	

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施 策 名		スポーツ振興事業の充実							
現状と課題		誰もが気軽に参加できるスポーツの普及が求められていることから、団体スポーツを楽しむ町民が安全で快適にスポーツ施設を利用できるように、老朽化した施設については、計画的に修繕する。また、スポーツ関係団体との連携を強化し、スポーツレクリエーションの普及及び各種スポーツの競技力の向上に力を入れる。							
施策の 情報 整理	目指す成果		町民が身近なところで楽しみながらスポーツに慣れ親しんでいる。						
	施策の目指す成果 指標及び実績	指標		平成23年度 上段(目標値) 下段(実績値)		平成22年度 上段(目標値) 下段(実績値)		目標数値の説明	
		軽スポーツ等の教室や各種スポーツ大会の参加者数		12,500人		12,500人		体育施設利用件数(3,447件)＋スポーツ大会等参加者数(7,131人)＝10578人	
				10,578人		12,027人			
	成果目標の達成度 (★★★)	★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%)★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —		施策 の 事業 費	予算額		9,159 千円	
						決算額		7,564 千円	
	達成度の判断理由		震災の影響により、水と緑の運動広場(テニスコート・野球場)が通年使用できなかったことなど、スポーツ施設の使用制限により住民のスポーツ活動も制限された。						
	設定成果指標 以外に現れた 成果の説明								
今後の課題と対応		スポーツ活動に参加している顔ぶれがあまり変わらず、町内のスポーツ活動は横ばいから減少傾向気味にあると推測される。今後は、住民ニーズや時代の変化を的確に捉え、より多くの人々に参加してもらえ事業活動となるよう検討を進める。また、町外からも広く参加者を募り、参加者を増やすことにより活気あるスポーツイベントとすることで町民のスポーツ活動に対する意識を刺激し参加を促進するとともに、スポーツ活動が地域の活性化につながるよう事業内容の検討を進める。							

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名		事業の取組実績	事業の評価(達成できなかった課題と今後の方向性)	事業費	
①	スポーツレクリエーション交流事業	スポーツ等を通じた交流づくりを推進する。軽スポーツ教室、町民運動会、サイクリング・ウォーキング講座や大会の開催	多くの事業を実施してきたが、各事業とも参加者数はあまり伸びなかった。今後は、住民ニーズに対応した種目やイベント形態への変更を検討する。また、町外からの参加者も募り活気あるイベントとすることで町民の参加を促進する。	H22予算	2,150
				H22決算	2,137
				H23予算	749
				H23決算	733
②	スポーツ競技力向上事業	専門競技の技術力を高める支援を行う。印旛郡市民体育大会・印旛駅伝競走参加利根リバーサイドマラソン・ウォーキング開催	体育協会各専門部の活動状況に差があり、活動の低迷している専門部の活性化を図る。また、マラソン大会の参加者も横ばい傾向にあるため参加者増員の方策について検討を進める。	H22予算	1,797
				H22決算	1,797
				H23予算	2,212
				H23決算	2,194
③	生涯スポーツ環境整備事業	スポーツ施設の適切な管理を行う。町民プール一般開放 水と緑の運動広場(野球場・テニスコート)補修工事	予定の工事は年度内に終了したが、工期が年度末までかかり、施設を使用できるには至らなかった。今後は、維持管理方法と利用促進の方策についての検討を進める。	H22予算	8,110
				H22決算	7,959
				H23予算	6,198
				H23決算	4,637
合 計				H22予算	12,057
				H22決算	11,893
				H23予算	9,159
				H23決算	7,564

学識経験者の意見（基本方針（２）について）

【施策名：生涯学習環境の充実】

- ・講座受講者の満足度について、約９割の方が満足という結果は、非常に素晴らしいが、多様な人材を把握していくことが、更に魅力ある講座につながるはずである。
- ・生涯学習の充実がまちづくりにどのように生かされ、それに行政と住民の一体化がどのようにかかわったのかを説明するべきである。
- ・開講講座数の減少や参加者の固定化が進んでいるとするならば、住民ニーズの多様化に応えられていないのかもしれない。今一度、住民参加、更には住民主導の生涯学習環境を再考する必要がある。

【施策名：青少年健全育成事業の充実】

- ・ふれあい推進委員は元教員が多い。子どもたちには幅広い人たちとのふれあいも大事なので、委員の構成を考えた方が良い。
- ・子ども１１０番の家は犯罪等の抑止力となるので、より多くの人に協力いただき拡充していくべきである。
- ・青少年相談員、子ども会育成連絡協議会は、メンバーの固定化及び活動内容のマンネリ化に陥らないように、多分野の方に色々な役割を担ってほしい。
- ・成人式は「舂ノ山関」を来賓に迎え、新成人だけでなく、家族や一般住民にも参加を募って、町の大きなイベントにしたらどうか。

【施策名：生涯学習資料の充実】

- ・図書室の利用者数が、目標値を超えていることは大変素晴らしい。財源の問題などもあるが、更に利用を増やしていくためには、蔵書の充実が大切なので、新刊書等の購入努力をお願いしたい。
- ・学校図書館の支援をお願いしたい。
- ・最近大学では、利用者の自主的学習の機会を提供する場として「ラーニングコモンズ」を設置する図書館が急激に増加している。ふれプラの図書室についても、町内の大学生や高校生が、放課後に自主学習や読書をしながら、小中学生の勉強や宿題のアドバイスをするような場所があれば良い。
- ・柏市視聴覚ライブラリーから所蔵教材を譲り受けたということなので、有効活用してほしい。

【施策名：スポーツ振興事業の充実】

- ・乳幼児から高齢者に至る様々な年齢層の住民にそれぞれのニーズに合ったスポーツ・運動に親しんでほしい。軽スポーツやレクリエーションスポーツ、アダプテッドスポーツ、さらには競技スポーツに至るまで、是非順天堂大学の活力あふれる人材を活用してほしい。また、幕内力士・舂ノ山の応援を仰ぎ、わんぱく相撲なども企画して、町に活気を与えてほしい。

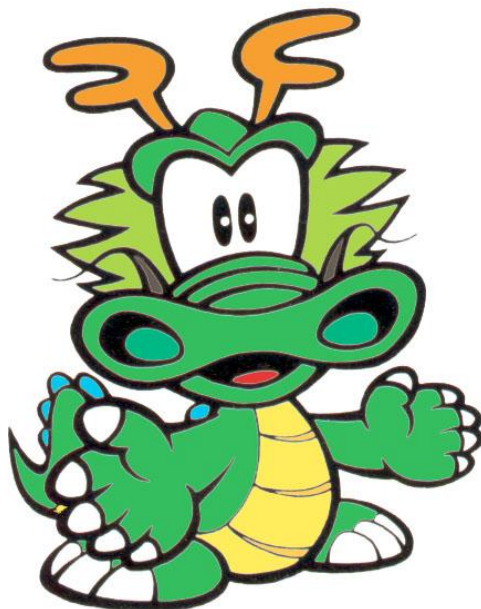
基本方針（３）

地域に根ざした芸術・文化の育成と町内にある文化財の保護・伝承・活用を図り、個性豊かで潤いのある地域文化の醸成を図ります。

【施策名】

- ・文化芸術発信拠点の充実・・・・・・・・・・・・・P 2 2
- ・町史編纂事務事業の充実・・・・・・・・・・・・・P 2 3
- ・文化財保護業務の拡充・・・・・・・・・・・・・P 2 4

○学識経験者の意見・・・・・・・・・・・・・P 2 5



施策評価シート										
1. 施策の情報整理										
施 策 名		文化芸術発信拠点の充実								
現状と課題		ふれあいプラザさかえの経年経過による施設の不具合が多く発生しており、その解消が望まれている。 各サークル等、文化芸術団体の会員の高齢化や会員の減少により、活動の減少が発生しており、活動支援や新規団体の育成が必要である。 社会環境の変化により、余暇時間を利用した、個人の趣味や学習活動が増加し、ふれあいプラザさかえに來れば、いつでも文化芸術の情報が入手でき、また多くの文化芸術に触れる機会が望まれている。								
施策 の 情 報 整 理	目指す成果		文化芸術に触れたり、学習意欲を刺激しあう機会の提供により、町民個々がスキルアップし、心豊かにいきいきと生活している。							
	施策の目指す成果 指標及び実績	指標		平成23年度 上段(目標値) 下段(実績値)		平成22年度 上段(目標値) 下段(実績値)		目標数値の説明		
		ふれあいプラザの利用人数		178,600人		250,000人		ふれあいプラザさかえの年間利用人数		
				178,185人		176,870人				
	成果目標の達成度 (★★★)	★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%)★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —			施策 の 事 業 費	予算額	53,481千円		
							決算額	52,436千円		
	達成度の判断理由	震災の影響により、4月末までふれあいセンターの部屋の貸し出しを17時までとし、文化ホールは6月末まで閉館とし、利用の制限がかかった。 震災被害における修繕工事以外に利用者の利便性向上のため、会議室の新設や多目的ホールの床修繕、視聴覚室のAV機器修繕等、施設の機能改善を図るとともに、自主事業として地元芸術家の作品展や高校・大学等の協力を得てのコンサートの開催等を行いながら利用者数の増加を目指し、前年度より利用者が増加し、目標にほぼ達成した。 23年度の目標数値は22年度実績(現状値)から1%の利用増の数値に下方修正した。								
	設定成果指標 以外に現れた 成果の説明									
今後の課題と対応		利用満足度と利用率の向上。 作品展等の開催や、芸術文化に触れる機会の提供。 文化芸術活動の中心となるような団体育成。 管理運営や事業企画の充実、民間の活力導入。								
2. 事務事業の取り組み										
(単位:千円)										
事務事業名		事業の取組実績		事業の評価(達成できなかった課題と今後の方向性)				事業費		
①	ふれあいプラザ施設 管理事業	震災被害の修繕工事、ふれあいセンターの会議室③の新設、多目的ホールの床修繕、ブラインドの改修、視聴覚室のAV機器修繕、部屋の照明・外灯の不点修繕、冷温水機・排水ポンプ・受水槽の修繕、自動ドアセンサーの修繕、文化ホール空調設備の修繕等を行った。		【達成できなかった課題】 経年経過による施設の不具合の全ての修繕ができなかった。 文化ホール運営委託を検討したが、結論に至らず引き続き検討することとなった。 【今後取り組む方向性】 より利便性の向上と安全性の確保に努め、施設・設備の不具合の解消を図る。				H22予算	75,955	
								H22決算	71,868	
								H23予算	53,452	
								H23決算	52,407	
②	文化芸術振興事業	貸館事業による文化事業を展開。 NHK公開番組や、高校・大学等の協力を得てのコンサートの開催、地元芸術家による「絵画展」を実施。		【達成できなかった課題】 多くの文化ホールを使った文化芸術公演が展開できなかった。 【今後取り組む方向性】 基金の支出を極力抑えながら、各助成制度の活用により町民のニーズに合った自主事業を展開していく。				H22予算	29	
								H22決算	29	
								H23予算	29	
								H23決算	29	
③	文化活動芸術団体 支援事業	サークル団体等の日頃の活動成果、発表する機会としてふれあいプラザ祭りを実施。		【達成できなかった課題】 ふれあいプラザさかえ利用サークル連絡会への加入団体が1団体しか増加しなかった。 【今後取り組む方向性】 ふれあいプラザまつりを他の催し物と合わせた形で、より大きなイベントとできないか、関係団体等と協議・検討が必要。				H22予算	0	
								H22決算	0	
								H23予算	0	
								H23決算	0	
合 計								H22予算	75,984	
								H22決算	71,897	
								H23予算	53,481	
								H23決算	52,436	

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施 策 名	町史編纂事務事業の充実
-------	-------------

現状と課題		町史編さんについては現在は凍結されており、できる調査を少しずつ進めている状況である。当面の課題として、調査の進捗の進んでいるものから、刊行するなど、刊行計画の見直しが必要である。					
施策の 情報 整理	目指す成果	本町の歴史、文化遺産等を史実に基づき、調査、収集及び記録し、永く後世に伝え愛郷心の高揚を図るとともに、町勢の発展に寄与することを目的とする。また、情報の共有化を推進する一環として、収集した史(資)料は、町民が活用できるよう公文書館法に基づき、歴史資料として重要な公文書等の保存及び利用に関し、適切な措置を講ずるよう体制の整備を行い、後世の町民に伝える。					
	施策の目指す成果 指標及び実績	指標		平成23年度 上段(目標値) 下段(実績値)	平成22年度 上段(目標値) 下段(実績値)	目標数値の説明	
		これまでの調査成果などについて、広報に掲載する(年12回)		年12回	年12回	23年度広報12か月×1回	
				年12回	年12回		
	成果目標の達成度 (★★★)	★★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%)★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —	施策 の 事業 費	予算額	207 千円	
					決算額	126 千円	
	達成度の判断理由	現在、刊行については凍結されている。専門委員調査や古文書解読筆耕作業を実施、これまでの成果の一部を広報に提供、具体的に達成した。					
設定成果指標 以外に現れた 成果の説明							
今後の課題と対応	町史編纂事業 刊行をめざした町史編さん事業の本格的再開 記録史料の保存と公開に関する業務 公文書の管理に関する条例・規則の制定						

2. 事務事業の取り組み (単位:千円)

事務事業名		事業の取組実績	事業の評価(達成できなかった課題と今後の方向性)	事業費	
①	町史編さん事業	調査は進捗したもの、度々の刊行計画の改正により刊行事業としては進捗していない。	【達成できなかった課題】 刊行事業自体は凍結している。 【今後取り組む方向性】 文化財社寺、民俗部会など調査の進捗しているものから刊行を図る。毎月の広報の掲載。	H22予算	170
				H22決算	84
				H23予算	170
				H23決算	90
②	記録史料の保存と公開に関する業務	古文書等(自治組織等管理文書、民間史料)の整理保存は38組織中、12組織分が終了している。 歴史的公文書の整理保存作業は議会関係など一部については進捗している。	【達成できなかった課題】 整理のための作業の実施が難しい(作業員、作業場所) 【今後取り組む方向性】 作業員・作業場所の確保、公文書管理法に係る例規を制定し、町の公文書のライフサイクルを確立する。	H22予算	37
				H22決算	36
				H23予算	37
				H23決算	36
合 計				H22予算	207
				H22決算	120
				H23予算	207
				H23決算	126

施策評価シート

1. 施策の情報整理

施 策 名		文化財保護業務の拡充					
現状と課題		岩屋古墳・浅間山古墳の周辺は地権者が死亡している等、問題のある案件があるので、速やかな相続を支援することが課題である。また、未指定部分があるため、追加指定を目指し、残りの地権者からの指定同意書を取得する必要がある。指定文化財を増やし、保護を図る必要がある。また、岩屋古墳の調査を進め、内容を確認する必要がある。					
施策の 情報 整理	目指す成果	国・県や町で保存されている文化財や開発行為によって消滅する埋蔵文化財の記録などを通して、それぞれの文化財が保存という観点において有機的に結びつき、個々の文化財がもっている重要性を理解できるようになる。また、その情報を広く普及することによって、後世に残すべき文化財の保護思想につながる。					
	施策の目指す成果 指標及び実績	指標		平成23年度 上段(目標値) 下段(実績値)	平成22年度 上段(目標値) 下段(実績値)	目標数値の説明	
		①国指定史跡(拡大) ②町指定文化財総件数 ③史跡指定同意書取得人数の割合 ④公有化面積		①1②20件 ③100% ④69,889㎡	①1②20件 ③100% ④69,889㎡	国指定史跡の土地の買上げ(平成23年度に公有化の目標値を岩屋古墳エリアと浅間山古墳エリアに拡大した) さまざまな種類の歴史文化遺産を精査し、特に重要と思われるものを指定文化財として保護するとともに、その情報が発信されて文化財保護及び活用がなされるようになります。	
	成果目標の達成度 (★★★)	★★	目標を達成(100%) ★★★ 目標をほぼ達成(80%)★★ 目標を達成していない ★ 現時点では判定できない —		施策 の 事業 費	予算額	36,867千円
						決算額	30,357千円
	達成度の判断理由	史跡の公有化については目標面積の84%を公有化した。					
	設定成果指標 以外に現れた 成果の説明	岩屋古墳の調査を行い、必要かつ重要なデータを収集した。文化財活用事業には、現地説明会、龍夢遺産紀行を合わせ、500名以上の参加者があった。					
今後の課題と対応	岩屋古墳周辺の国指定史跡の公有化を達成するため、地権者が死亡している案件について相続手続きの相談に応じるなど、速やかな相続を支援する。 未指定部分については、追加指定を目指し、残りの地権者からの指定同意書を取得する。 町指定関係は、有形文化財(建造物、彫刻、古文書、考古資料など)、民俗文化財(芸能など)について精査し、特に重要と思われる文化財を指定し、保護するとともに活用する。 岩屋古墳の調査を進め、整備活用のためのデータを収集し、また、現在できる方法で活用・PRを図っていく。						

2. 事務事業の取り組み

(単位:千円)

事務事業名		事業の取組実績	事業の評価(達成できなかった課題と今後の方向性)	事業費	
①	文化財の保全・活用事業	開発に伴う記録保存は、その都度の事業者等と連絡、協議、調整は達成されている。岩屋古墳の発掘調査を行い、岩屋古墳の内容確認を実施した。	【今後取り組む方向性】 岩屋古墳等の発掘調査を進め、今後の整備・活用に必要データを収集する。	H22予算	4,497
				H22決算	4,012
				H23予算	9,716
				H23決算	9,337
②	龍角寺古墳群指定・調査整備事業	岩屋古墳エリアの公有率はほぼ目標に達し、公有化の同意を得られなかった未指定地を残す状態となった。また、環境整備も国の緊急雇用創出事業により、バイパスからも古墳が見えるようになり、環境が整備された。	浅間山古墳エリアについては、地権者との話し合いがまとまらず、当初計画通り購入が進まなかったが、平成24年度に再度交渉を行い、25年度購入に向け、地権者に整備計画を説明し、同意を得る。	H22予算	44,442
				H22決算	43,333
				H23予算	27,151
				H23決算	21,020
合 計				H22予算	48,939
				H22決算	47,345
				H23予算	36,867
				H23決算	30,357

学識経験者の意見（基本方針（３）について）

【施策名：文化芸術発信拠点の充実】

- ・文化ホールの指定管理者制度等の導入を検討し、施設の稼働率の向上を図ってほしい。

【町史編纂事務事業の充実】

- ・町史編さんについては凍結されているようだが、２３名もの専門委員の人たちがいるので、この人たちの熱意が冷めないうちに再開するべきである。

【文化財保護業務の拡充】

- ・岩屋古墳の調査が進んで、うまく活用できれば栄町の観光の目玉になるので積極的に進めていくべきである。
- ・栄町の特色は、水と緑に恵まれた自然環境の良さと歴史文化財である。特に、龍角寺と岩屋古墳は観光の目玉になりうるものなので、観光協会などと協力して、観光資源化を図るとともに公有化を推進されたい。